

安全・安心な学校にするために ～過去の災害に学ぶ市内小中学校の防災・減災の取組～

武雄市立北方中学校
校長 田中 政紀

1 はじめに

武雄市は、佐賀県の西部に位置し、低山と盆地と平地が入り組む地勢である。北部は山に囲まれた複雑な地形をなしている。北西部は盆地を形成し、その中央を松浦川が北流し、南部は、六角川が細長く西に延び、平坦部を流れている。平坦部は、六角川が屈曲し潮の逆流と穏やかな河床勾配により、豪雨時における災害常襲地帯となっている。

近年の異常気象により、様々な危機が学校に迫ってくることが多くなった。大雨・酷暑・台風などの事象があてはまる。特に最近では、線状降水帯が発生し、数日雨が降り続き、結果として大きな水害や土砂災害を発生させている。

武雄市では、令和元年8月と令和3年8月に大雨による甚大な被害を3年間で2回受けた。自宅の床上浸水や避難所生活などを経験した生徒がおり、大雨警報が出される度に恐怖を感じていることは容易に想像できる。【写真1】

そのような状況であるため、小学校11校、中学校5校で組織する武雄市校長会では、市内の教育活動や諸課題に対して協力したり、緊急対応が必要な場合の情報共有を密にしたり、連携しながら取り組んでいる。



写真1

2 主題設定の理由

平成30年7月、佐賀・長崎・福岡県に大雨特別警報が出され、西日本を中心とした「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」が発生した。この集中豪雨は、生徒が登校した後に降水量が増加し、夕方に大雨特別警報が発令され、下校措置等の判断を行った。

令和元年8月27日～30日、佐賀・長崎・福岡の九州北部3県を中心とする集中豪雨「令和元年8月の前線に伴う大雨」が発生し、武雄市東部地域の朝日町、橘町、北方町の3つの町で多くの家屋が浸水し、甚大な被害を及ぼした。住民避難1067名、住宅被害（床上浸水1025件、床下浸水511件）の状況だった。道路・河川等への被害や農林業への被害だけでなく、商工業への被害が216店舗にも及んだ。自衛隊等の緊急対応として延べ6000名以上が従事し、県内外から人的支援や物的支援を行っていただいた。その後、復興に向けて取り組みが進められた。

令和3年8月11日～19日の大雨による災害被害が発生し、武雄市東部地域の朝日町、橘町、北方町の3つの町を中心に2年前より甚大な被害を及ぼした。住民避難901名、住宅被害（床

上浸水1183件、床下浸水579件)で、商工業への被害も230店舗となった。この3年で、2回もの大きな災害にみまわれ、市を上げて防災への取組が行われるようになった。

このようなことから、防災・減災の意識を高める生徒の育成をめざす必要があると考え、本主題を設定した。

3 取組の視点

防災・減災の意識を高める生徒の育成をめざして、次のような視点を設定した。

- (1) 総合的な学習の時間の活用
- (2) 保護者や地域と連携
- (3) 武雄市事業の活用

4 具体的な取組

- (1) 総合的な学習の時間の活用

本校は、令和元年の大雨によりで家屋浸水など大きな被害を受けた地域の学校である。そのため、総合的な学習の時間の内容を見直し、防災教育を中心とした全体計画の見直しを指示した。その内容は、「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開（文部科学省発行）」を参考に、大規模災害に備え、「自助」「公助」「共助」を各学年のテーマとして、系統立てて作成した。

1年生の「自助」では、「自分自身の身を守り、被害を最小限にするためにできることを考え、実践する」をテーマに、大雨や地震などの災害について調べたり、自分でできる対策について調べたりして、自分の身を守るための方法の実践（非常食の調理法の体験など）へとつなげた。

2年生の「公助」では、「災害時に対応する公的機関の働きや役割、情報通信網などについて理解を深めるとともに、災害発生時に自分ができることについて考え、実践する」をテーマに、災害時の行政の対応や情報通信について調べたり、災害時に自分でできることを調べたりして、自分ができることの実践（避難生活のしかた、命を助ける方法の体験など）へとつなげた。

3年生の「共助」では、「地域の防災について、その役割を知り、中学生としてできることを考え、地域の一人として責任を自覚し、実践する」をテーマに、地域防災について知ったり、災害時に地域の一人として自分にできることを考えたりして、自分ができることの実践へとつなげた。【資料1】

令和6年度 第3学年 総合的な学習の時間 単元計画（計 70時間）						武雄市立北方中学校	
テーマ	課題と比べる	SDGsを軸に		にふさわしい		にふさわしい	
防災・減災	安心・安全なまちづくりへの地域の取組（共助）と支援する人々	まちづくりの歴史的な学習を通して、まちの発展や問題発生とともに、移り変わるまちについて「安心・安全なまちづくり」について地域の取組を学ぶ。さらに、その学びを生かし、私たち一人ひとりが地域の一人としてより良いまちづくりに積極的に関わろうとする。また、地域の防災について、その役割を知り、中学生としてできることを考え、地域の一人としての責任を自覚し、実践しようとする。					
単元の目標							
単元名	安心・安全なまちづくりを創出しよう						
時 間	5月～7月（地域・自分の色の基礎）	8月～10月（防災の基礎）		11月～2月（地域・自分の色の発展）			
目 的	主な学習活動（25時間）	実質・能力	主な学習活動（25時間）	実質・能力	主な学習活動（25時間）	実質・能力	
【基礎の学習】	・自分の身のまわりの安全なまちづくりに関する「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」をテーマにした学習活動を行う。 ・「安心・安全なまちづくり」をテーマにした学習活動を行う。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	【基礎の学習】 ・防災の基礎から理解を深め、地域の防災・減災の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	【基礎の学習】 ・これまでの学習を振り返り、地域の防災・減災の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	
【発展の学習】	・「安心・安全なまちづくり」をテーマにした学習活動を行う。 ・「安心・安全なまちづくり」をテーマにした学習活動を行う。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	【発展の学習】 ・「安心・安全なまちづくり」をテーマにした学習活動を行う。 ・「安心・安全なまちづくり」をテーマにした学習活動を行う。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	【発展の学習】 ・「安心・安全なまちづくり」をテーマにした学習活動を行う。 ・「安心・安全なまちづくり」をテーマにした学習活動を行う。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	
【まとめ・表現】	・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	【まとめ・表現】 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	【まとめ・表現】 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	(A) (C) (D) ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。 ・「安心・安全なまちづくり」の取組について調べる。	

※本学では総合的な学習の時間「安心・安全なまちづくり」をテーマとし、防災・減災、防災・減災の取組について調べる、防災・減

資料1

(2) 保護者や地域と連携

① 1年生対象の親子防災教室【写真2】

「防災・減災サポートさが」の防災士会の皆様をお迎えし、親子で防災を考える時間を設定した。内容としては、

ア クロスロードゲーム

この場面、あなたならどうする？

選択肢を選んでグループ協議をする

<問題>【写真3】

あなたは住民です。今から避難しようと思いますが・・・
避難しようと思ったが、ペットの小型犬のことが心配だ。
一緒に避難所に連れて行っても、ペットはゲージに入れて別の部屋に置かれる。

Yes：ゲージに入れて一緒に避難する

No：ペットと別の部屋になるので避難せずに自宅にとどまる



写真2

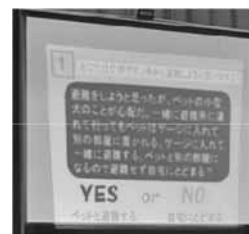


写真3

イ 段ボールベッド組立体験

ウ 非常食（アルファ米）作り体験

② 小中合同での引き渡し訓練

令和6年6月に、災害時における保護者引き渡し訓練を小中合同で実施した。初めての合同開催であったが、小学校との打ち合わせや保護者連絡を密にしたおかげで、当日は大きな混乱もなく実施できた。学校周辺で車が渋滞することを想定し、地域住民代表の区長会に出向き、実施内容を事前アナウンスした。【資料2、写真4】



資料2



迎いの生徒名を本部に伝える
写真4-①



校舎玄関へ
写真4-②



一方通行、帰りは左折のみ
写真4-③

(3) 武雄市事業の活用「出前講座」 【写真5】

武雄市役所より地域防災を担当されている方を講師に迎え、3年生を対象とした講話と実演をしてもらった。

武雄市民としての防災への備えについて学べた。実演では、生徒が段ボールの避難所用組み立て式簡易ベッドを短時間で作成した。【写真6】



写真5



広げる
写真6-①



強度を高める
写真6-②



ベッド完成
写真6-③



武雄市HPより



資料3



写真7

※ 生徒会主催による「ぼうさい集会」

「ぼうさい集会」を生徒会主催で実施した。熱中症対策として、全クラスがリモートで参加し、生徒会本部役員が進行した。「ぼうさい集会」は災害から身を守る「防災」という意味と過去の災害を忘れないという意味の「忘災」の2つの事を考える集会という趣旨説明から始まった。実際に経験した豪雨災害での避難の様子やクイズ形式の避難の心得が紹介された。準備されたスライドなどは参考になるものばかりだった。【写真8】



写真8

5 緊急対応の実際

(1) 橘小学校の事例

① 緊急事態発生

令和6年7月1日（月）急な大雨による増水で、下校対応を学校判断ですることになる。

② 対応

ア 水害の町で、令和元年度、令和3年度に床上浸水の被害あり。

イ 気象情報の収集と雲画像の動向を確認した。

ウ 天気予報や居住地の様子だけでは、判断できないため、13:00頃校区内を車で巡視し、増水箇所や氾濫箇所の確認を行った。

エ 増水は見られたが、氾濫箇所はなかった。気象情報によると、夕方も降り続き、有明海の満潮時と重なるため、6時間目のクラブ活動を中止し、全校5時間授業にして、職員が引率しての「地区別集団下校」を決断した。

オ 児童クラブは、保護者の迎えで安全なため、通常通りだった。

カ 地区別集団下校のメールを保護者に発信し、下校後の地域での安全確保を依頼した。

キ 児童の確かな引き渡しのために、車で迎えに来る際は、迎えの場所を旧JAと橘公民館に設定した。

ク 15時に下校したが、予想以上の雨量となり、児童用の校門前が、20cmの浸水となったために、消防団に協力してもらい、増水で危険な地区は、迂回路を通り、安全なところまで送り届けていただいた。【写真9】



写真9

③ 結果

ア 保護者へメールで状況をお知らせし、安全な下校を促したので、大きな混乱はなかったが、みるみる増水していったので、混乱する保護者もいた。

イ 学校前道路が20cm程浸水したため、まさかの学校前が通行止めになり、遮断されたため、迎えの場所を旧JAと橘公民館を設定したために安全に児童を引き渡すことができた。

ウ 消防団に協力してもらい危険な地区は、送り届けていただいたのが、安全確保につながった。

エ 下校後は、徐々に天候も落ち着き、次の日は、「通常登校」となった。

6 成果と課題

(1) 成果

- ① 総合的な学習の時間を活用し、「自助」「公助」「共助」を各学年のテーマとして、系統立てた防災教育の取組は、災害の発生前・発生時・発生後どのように行動すればよいかなど、生徒の防災・減災の意識を高めることができたと思われる。

- ② 非常食の調理法の体験や避難生活のしかた、命を助ける方法の体験学習は、災害時の対応及び意識付けだけでなく、緊急事態が発生した時の対応及び意識付けにもつながり、意義あるものである。
- ③ 学校における保護者引き渡し訓練の取組は、生徒の防災意識の高まりだけでなく、保護者や地域の方の意識も高まったと思われる。
- ④ 校長会で各学校の特色を生かした取組や校長としての手立てを共有することにより、自校の学校運営の改善に生かすことができた。

(2) 課題

- ① 現在は、地域により災害の発生状況も異なるため、各学年で取り組む内容など、学校間の取組には差がある。市内の生徒に同じ教育ができるよう連携を図っていきたい。
- ② この3年間で2度も大雨による災害被害に見舞われたため、その対策や対応への取組が主なものだが、生徒たちは将来様々な地域で活動することになる。いろいろなことを想定し、緊急事態が発生した時や発生後どのような行動をとるのかを考えさせるような取組も必要となる。

7 おわりに

働き方改革などの時代の流れや新型コロナウイルス感染症の影響で、学校生活も大きく変わった。生徒たちの様々な取組が制限され、体験を通した学びが少なくなっている。そのような状況でも、各校の実態に応じて何ができるのか工夫しながら取組を行った。

生徒たちが、自然災害を含め何が起こるか分からないこれからの社会を生きていくために、様々な知識だけでなく、体験を通して知識や技術を学んでほしいと強く思う。また、自ら考え行動できる人に成長してほしいと思う。